ほのぼの苑だより

題字：佐藤　徳治　様

正和会
DIARRHEA

平成19年　第4回　県北介護老人保健施設　野球大会に出場しましたが、惜しくも準優勝に終わりました。

八郎まつり

八月十六日、昼過ぎから私達は五名の入苑者の方々と八郎まつりに参加しました。その日は朝から雨が時折降る中、会場へ出向くと既に活気に溢れていました。会場を少し回り始めると、早速保育園児による龍体の練り歩きが始まり、昭和地区を歩いてきた八郎太郎と龍子が会場に入ってくるとその迫力に「おぉ、すごい。」と圧倒され、「これだば見応えあるな。」と喜ばれておりました。

出店のかき氷を片手に、少しおやつタイムと思うと、八郎音頭、ヨサコイ踊りが次々に始まり、食べながら見学することが出来ました。これが祭りの醍醐味で参加された方々は八郎音頭を一緒に踊られたり、とても楽しまれたようでした。

（千葉　也寸志　記）

二十四時間テレビ

今年も二十四時間テレビのチャリティー募金に八月十九日入苑者と通苑者の方々と一緒にブルーメッセに行き、参加してきました。

普段なかなか外出する機会の少ない入苑者の方々は、車内での表情は明るく、とても楽しみにされているようでした。到着してからは早速、苑で集めてきた募金箱を入苑者の方から直接手渡しでアナウンサーの方に渡されました。その後、全員でフラワーアレンジメントを行ったのですが、皆さんとても積極的に作業され、それぞれ個性的な作品が出来上がりました。最後に中庭の花畑を見たのですが、皆さん綺麗な眺めに目を輝かせていて、ゆっくりとした時間を過ごして頂くことが出来ました。

（安田　幸　記）

ほのぼの苑　ちょっとイイ話

「ほのぼの苑　ちょっとイイ話」は、苑内での感動する話をご紹介するコーナーです。

ちょっとイイ話

～八月の業務日誌より～

八月六日

今日自分の担当している入苑者の方の掲示板に家族の方からお返事がありました。内容は「母の笑顔を見て安心して帰って行けます。」ということでした。今後、そのように思って下さるご家族の方を増やしていけるように入苑者の方にとっても、ご家族にとっても安心していただけるような介護サービスを行っていきたいと思いました。

八月十二日

明日から、お盆ということで、本日より自宅へ外泊される入苑者の方が多くいました。「家に行くの楽しみですか？」と聞くと、満面の笑顔で「楽しみだ！早く帰りたい。」と話される入苑者の方々。家族の方が迎えに来ると目に涙を浮かべて喜ぶ方もおり、楽しく過ごして欲しいという気持ちと同時に私も嬉しくなりました。家族の方と過ごす時間を目一杯楽しんできて欲しいと思います。

八月二十五日

久しぶりにリハビリを行っている入苑者の方がいました。朝から調子が良さそうで、声かけにも冗談を言って、笑ったりしました。ベッド上でいる時と車椅子に乗った時では顔つきも変わる上に、お洒落をして行く姿は、とても微笑ましかったです。「少しでも起きるとスッキリするなぁ～」と笑って話されていたので、これからも調子の良い日はリハビリ以外でも離床して過ごせていただけたらと思います。

八月二十八日

今日は少しの時間でしたが、入苑者の方と楽しい時間を過ごすことが出来ました。風で紙ナプキンをどこまで飛ばせるのかという遊びです。何気ない遊びですが、その方はとても楽しそうに笑顔が溢れていました。忘れかけていた笑顔です。大切にしていきたいと思います。

ほのぼ農園物語

ご無沙汰しております。プロジェクトN佐藤です。現在、玄関ホールにて当苑保守職員が栽培したジャンボカボチャを展示しておりますが、九月十六日（日）に大潟村にて行われた第十七回日本一ジャンボカボチャ秋田県大会に出品致しました。あいにくの雨模様にて、入苑者の皆さんと一緒に見に行くことが出来ず、職員のみの出席となり、非常に残念に思いましたが、記録56.5kg、形や色の鮮やかさで審査される「かっこいいで賞」を昨年に引き続き、今年も受賞することが出来、いいお土産を持ち帰ることが出来ました。

はっきりとした順位の発表はまだありませんが、主催者からの連絡があり次第、玄関ホールのジャンボカボチャ横に掲示いたしますのでご期待下さい。また次号ほのぼの苑だよりにも具体的に掲載する予定です。

9月期家族会

9月の家族会は、9月30日（日）に開催致します。今回の家族会では、ほのぼの苑のゴミに対する取り組みについて、そして、これから冬に向けて流行する可能性がある感染症の対策についてお話し致します。また、ご家族の皆さまのご意見もいただきたいと考えておりますので、大変お忙しい中とは存じますが、何卒ご参加いただき、当苑をより良い施設にするためにご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

ほのぼの苑

9月のテーマ

◎ ほのぼの苑のゴミの取扱いについて

◎ 感染症対策について

幸福

「幸福の記憶」として、少し思い出を話したいと想う。

今の高齢化社会も少子化も予想しなかったであろう昭和四十二年生まれの私は、三姉妹年子の長女で育った。農村地域でもあり、周りは核家族や一人っ子が珍しかった。八人家族の我が家では一つのテーブルでご飯を食べ、一台のテレビを皆で見た。

曾祖母は九十歳で急病に倒れる頃には、家族の顔を見て、お客さん扱いで「よく来たなー」「財布がない」「家さ帰る」等と。家族が困り果てたというほどではなかったと思うが、今の私であれば、もっと寄り添って見守ってあげられたように思う。

祖父は庭の手入れ半日、ゲートボール半日というくらい悠々自適の毎日だった。そして、三姉妹は祖父のひざ枕で耳かきをしてもらうのが好きで、順番を競い合った。後々。祖父も懐かしそうに笑顔で振り返ることがあった。

今年九十歳を迎え健康である祖母には、本当によく果物の皮を剥いてもらったように思う。家の柿が実をつけて、渋抜きをして甘くなった時、梨や林檎、冬には柑橘類も、小さい頃、包丁の動きは魔法のように滑らかに見えた。

若い時、父はギターに夢中だった頃があるそうだ。そして、家業である農業を引き継ぎ、日中は汗を流し働き、農機具を操る。農繁期にはよく田んぼにも着いて行き、あぜ道の草花を摘んで遊んだ。そして夜、三姉妹は父のギターで歌を歌った。良く耳に残っているギター曲には「禁じられた遊び」や「アルハンブラの思い出」がある。

ギターは憧れていても、自らは手を出せずにいたが、中学生の息子が祖父である私の父にギターを弾きたいと言い出し、練習を始めた。何かと忙しい父と息子の二人でギターを弾く姿が見られて嬉しいのと、三十年も前のギターを囲んだ家族を思い出す。

三姉妹は時々、母の手作りのスカートやワンピースを着ていた。おそろいやお下がりは、三人にすれば必ずしもいい感じはしなかったと思うが、一晩二晩のうちに形あるものに縫い上がることに嬉しさや驚きがあった。仕事と家事に追われ立ち働く中での母の手作りの洋服は、しあわせそのものだったと、今は思える。

記憶の中では、こんなにも幸福と思える。「今は幸福か」など考えが及ばないくらいのスピードで過ぎていくが、健康で良く働く中で、「幸福の記憶」を一つずつ増やしていきたい。

ポツリと一言

今年も病院広報誌コンクールのBHI賞に応募しました。結果はこの誌面でお伝えしていこうと思います。㋮

発行

医療法人　正和会

介護老人保健施設　ほのぼの苑

〒018-1401

秋田県潟上市昭和大久保字街道下92-1

電話　018-877-7115　FAX　018-877-7481

ホームページ

http://www.seiwakai-akita-no1.or.jp/

編集責任者　加藤　稔樹

発行責任者　小玉　敏央